

第4次地域福祉活動計画の方向性

基本理念

みんなで支え合い、共に作る安心なまち

背景・社会情勢の変化

1 高齢化の進展

・高齢化率(65歳以上人口の割合)

R元年度 R5年度

・甲州市 34.8% → 37.2% 2.4%増加

・山梨県 29.9% → 31.3% 1.4%増加

(山梨県平均より5.9%高い)

2 高齢者単身世帯数の増加(国勢調査から)

H27年度 R2年度

・甲州市 1,460世帯 → 1,681世帯

221世帯増加

3 コロナ禍による交流機会の減少

・R2.4月 山梨県が緊急事態宣言の対象地域

→住民の集まる場が減少

・R5.5月 感染法上の位置付けが5類に移行

→徐々に通常の活動へ

課題

1、2から

- 高齢者を支える人の割合の減少や、核家族化の進展に地域のつながりの希薄化も相俟って、→生活や介護、医療のケアを必要とする人の増加

3から

- いきいきと人と話をする機会が減少し、こもりがちになってしまう。生活の困窮。→困っていることを声に出し、発信できない

甲州市・アンケート結果(R5.8月実施)

社協に期待すること(上位3つ)

- ① お年寄り介護や見守りなど
- ② 福祉に関する情報の発信
- ③ 地域福祉活動や住民参加への支援

対応の方向性

- R6～ 地域包括支援センター業務を甲州市から受託
- R7～ 介護の相談窓口(勝沼健康福祉センター)を拡充

地域における子育て、生活相談から、介護、看護まで一貫して支援

- 地域において人と人をつなぐ機会をふやす
- R3～ 地域や市全体の関係者の連携・協働を推進する業務を甲州市から受託

・交流イベントの拡充
・各支部活動を通じた住民のふれあい
・地域の支え合い活動の推進

地域において、性別や年齢、障がいの有無、経済的格差などにかかわらず、人々が安心して暮らし活躍できる